

開閉会式 考案メンバー8人選出



2020年東京五輪・パラリンピックの開閉会式について、大会組織委員会は20日、「総合プランニングチーム」を設け、メンバーに映画「ALWAYS 三丁目の夕日」シリーズ監督の山崎貴氏(写真上)ら8人を選んだと発表した。来夏までに、プランニングチームが五輪とパラリンピックの四つの開閉会式を起承転結で貫くメッセージやストーリー(基本プラン)をまとめた後、監督の人選にあたる。

メンバーは山崎氏のほか、昨年のリオデジャネイロ大会の開閉会式で東京大会をPRするセレモニーに関わった歌手の椎名林檎氏(写真下)も加わった。狂言師の野村萬斎、昨年ヒットした映画「君の名は。」をプロデュースした川村元気の両氏も選んだ。人選に携わった有識者懇談会の御手洗富士夫座長(組織委名誉会長)は「20年大会の後も活躍できる世代を中心に選んだ」と説明した。

「平和」「共生」「復興」「未来」「日本・東京」「アスリート」「参画」「ワクワク感・ドキドキ感」の八つを基本コンセプトにすることも決定。このコンセプトをもとに、開閉会式の基本プランを考える。監督の人選について、組織委の中井元チーフ・セレモニー・オフィサーは「プランニングチームのメンバーと重なる可能性もある」と説明した。(前田大輔)

2020年へ準備着々



完成予想図(日本財団パラリンピックサポートセンター提供)

パラ競技専用アリーナ5月完成へ

日本財団パラリンピックサポートセンターは20日、パラリンピック競技専用の体育館「日本財団パラアリーナ」を東京都品川区の「船の科学館」敷地内に建設すると発表し、起工式を行った。選手の強化と競技の普及が目的で、完成は来年5月の予定。バリアフリーが充実し、無料で利用できる。

体育館は延べ床面積約3千平方メートルで、メインフロアはバスケットコート2面分。車いすで移動しやすい間取りや個室の広いトイレなど、バリアフリーに配慮した設計になっている。利用は予約制で、2020年東京パラリンピックの実施競技の選手や競技の普及啓発団体に限られる。建設費は約8億円。

車いす競技ではこれまで、床を傷つける恐れやバリアフリーの不備を理由に一般の体育館の利用を断られることがあり、選手たちは練習場所の確保に苦労してきた。同センターの小沢直常務理事は「日常的に利用できる専用施設で環境改善を目指したい」と話した。(斉藤寛子)

車いす競技ではこれまで、床を傷つける恐れやバリアフリーの不備を理由に一般の体育館の利用を断られることがあり、選手たちは練習場所の確保に苦労してきた。同センターの小沢直常務理事は「日常的に利用できる専用施設で環境改善を目指したい」と話した。(斉藤寛子)